

おわりに

本書では、牛舎設計に直接係わる技術的情報に関する記述を示したが、こうした情報を用いる前に設計担当者が先ず行わなければならないものは、飼養管理プログラムの設計である。

事例の見た目に振り回されて「あれが良い。」「これが良い。」と安易に判断し、採用した後で本来の飼養管理プログラムと合致しないことに気付き、取り返しがつかなくなった例もあるようだ。

牛舎は目的ではなく、飼養管理プログラムを実行するための手段に過ぎないことを認識すべきである。

したがって、設計担当者は、業務目的からどのような飼養管理プログラムが求められているのかをよく考えた上で、牛舎設計業務に取りかかってもらいたい。

本書では、多くの農家の方々や牛舎建築業者の方々から頂いた情報を参考にさせていただいた。

牛舎は、自分で試しに作ってみようと思っても、できるものではない。したがって、より多くの事例に触れて、「何が良くて、何が悪いのか。」を判断する必要があると考え、多くの方々から情報を得ることに努めてきた。

ほんの数年間のうちに、大型牛舎を取り巻く情勢は一変した感がある。また、これからも大きな変化が起こりそうな気がする。引き続き、農家の牛舎からは目が離せないであろう。

改良部種畜課 岡部昌博



家畜改良センター 技術マニュアル 8

牛舎設計マニュアル

著 者／独立行政法人 家畜改良センター
改良部 種畜課 岡部昌博

発 行／独立行政法人 家畜改良センター

発行日／平成14年 3 月

印刷所／不二印刷株式会社